

センサー

1994年 1月号 第27号

東京温度検出端工業会 会報

新年に当って

会 長 西 村 明

東京温度検出端工業会の皆様、明けましておめでとうございます。

例年は相変りませずと云う処ですが、今年は変つて貰わなければならない位、昨年1年間は不況に苦しんだ年でした。

当工業会も、昨年センサーに、20周年記念行事として海外旅行を計画している事をお知らせし、現実にある程度計画も進めましたが、現状ではまだ本年中は不況が続く見通しなので、参加者が少ない心配があり、この計画はしばらく延期せざるを得ないと思います。申し訳ありませんが、会員の皆様御了承を賜りたいと存じます。

過去の我国の経済発展を支えて来たのは、政、官、財一体のチームワークであったと云われています。現在の財界の苦境に際し、政、官が全く手を打たなかった訳ではありません。政府は数次にわたる所謂大型公共投資の発表をして来ましたし、公定歩合は何回も引下げられ現在史上最低と云われる1%台まで下っています。

過去の不況の際には、公共投資の発表とか公定歩合の引下げがあった際には、株価が急上昇して不況脱出の糸口となった例も多かったのですが、今回はこう云うアナウンスメント効果は殆んど無く、公定歩合引下げのニュースで、株価が逆に下ると云った事さへありました。それでも政策が実施されればいずれ効果は出てくる筈ですが、公共投資は大手建設会社のゼネコン汚職の関連で実施が大幅に遅れ、公定歩合の引下げも後手後手に廻って、経済界に活気をつける事が出来ませんでした。確かに現在の需要状況を見ればいくら金利が安くなったとしても企業とすれば新規の設備投資に踏み切る処は殆んどなく、一方銀行もバブルによる多額の不良債権を抱えている現状では、貸出には慎重にならざるを得ず、更に個人も先行きの不安から生活の為の最低の消費以外は貯蓄に廻す傾向が強まり、お金が廻らない状態になっています。景気とは金廻りの良い、悪いという点から、完全な不景気であり、これを打開するには相当ドラ

テイクな方法を取らないと無理ではないかと思われます。松のやぶにらみ経済評論を云いますと、もう一度の公定歩合引下げと所得減税を同時に実施し、その上に金融機関の不良債権償却に公的資金を導入する処までやれば相当の効果はあると思います。バブルを助長した金融機関の救済に公的資金を使うのはどうかとの論議はあるでしょうが、要は地価と株価をこれ以上下げないか、或いは少しでも上がる方向にさせなければ金融不安は解消せず、今の動きの取れない経済を上昇方向に動かす事は難しいからです。但し現在の不安定な政治情勢から見てこの様な強力な政策が取れる可能性はまず無いので、この1年、不況からの立直りは困難だろうと思います。此処まで不況を深刻化させた事については矢張、政、官の責任が大いにあると云ってもよろしいでしょう。

しかし、如何に政府や日銀を非難しても、我々の明日が良くなる訳ではありません。この1年、我々はどうやって生き抜いて行くか？ を自分で考えるしかない、と覚悟した方が良さそうです。日本人の欠点として「苦しい時の神頼み」があると云われますが、この神はお上、即ち政や官と云い替えても間違っていないと思います。それには先ず、現在不況で売上、利益が後退している状況が通常の状態であると見極め、それでもペイして行く様な企業体質を作り出す事が必要だ、とは考えられませんか。その際一番問題になるのは人件費だと思います。勿論、アメリカの様に簡単にレイオフが出来ぬ日本企業では、人件費の削減は極めて難しいでしょうし、又一度雇用した人は簡単に首を切らぬのはむしろ日本企業の美点であると私も思っています。唯、土地は常に上るものだと云う神話がバブルの崩壊で崩れたと同様、賃金も常に上るものだと云う神話も崩れても仕方が無いと考えます。土地と賃金を同じに見るのは乱暴だと云う反論も十分承知はして居ますが。

勿論、人件費以外の経費の節減は第一にやらなければなりませんし、既に各企業はギリギリの処までやっていると思います。それでもペイしなければ賃下げも止むを得ないと云う事です。金融不安の上に雇用不安を重ねるよりは、雇用だけは何とかして守ると云う方向がベターだと主張したいのです。

新年早々勝手な議論を申し上げましたが、要はこの1年、自分達の城は自分達の手で守ると云う考え方で進むしかないと申し上げたいのです。

それで最後に、この様な不況の際こそ、同業者の間での情報連絡は密にして、お互を守る為の役に立てたいと考えております。その一端として当工業会も多少とも皆様のお役に立つ事がありましたら幸と存じております。会員の皆様の御健闘を祈念し、来年の正月はお互に本当に喜び合える日となる事を希望いたします。

業態調査アンケート調査集計結果

1993年12月

過去2年間の売り上げ高の平均伸び率

(%)

+10以上	+5~+9	0~+4	小計	-1~-4	-5~-9	-10~-15	-16~-20	他	小計
0	11.8	35.2	47.0	11.8	5.9	23.5	11.8	0	53.0

今後2年間の売り上げ高の伸び率の見通し

(%)

+10以上	+5~+9	0~+4	小計	-1~-4	-5~-9	-10~-15	-16~-20	他	小計
5.9	11.8	41.2	58.9	0	0	17.6		23.5	41.1

我々の業界にも不況の影響が色濃く現われているように思います。

調査は各2年間のものですが、同じことを1年間として行なえばさらに悪い数字になったのではないのでしょうか。今後の見通しについて23.5%の会員の方々が、マイナスと思うが全く予測がつかない、と報告してきております。これはこれまでの調査では見られないことです。

それだけ、先の見通しがつきにくくなって、ということでしょう。

アンケートへの御協力ありがとうございました。

第27回「けんたん会」報告

6月10日、武蔵丘ゴルフコース、参加者 11名。

プロの公式戦なども行なわれるだけあって良く整備されたコースでした。飯能市の近郊にあるのですが道路が入り組んでいるのか、通勤時間にぶつかってしまうのか、この近くでコンペを開きますと何故かいつも遅刻者が出ます。今回も2人ほど集合時間に間に合わずひやひやしました。

スタート順を組みかえて何とかすべり込むことができました。車で行かれる場合には注意が必要です。料金が少し高いようにも思いますがパブリックコースですので平日なら比較的楽に予約がとれるようですので今後も利用していきたいと思います。

成績	グロス	ハンデ	ネット
優勝 則武 光夫氏	100	22	78
2位 秀城 茂雄氏	94	15	79
3位 向井 勇司氏	113	32	81
平均スコア	104	9	ストローク

第28回「けんたん会」報告

11月9日、清川カントリークラブ

丹沢の大山の東側にあるゴルフコースです。小田急の本厚木から距離的には近いのですがずいぶん山深い感じのする静かなところでした。紅葉も少し始まり天気もまずまずで申し分のないコンディションでした。

今回は(株)デクサジャパンのW・リース氏、石福金属興業(株)の竹見氏の初参加を得ました。この会も

28回目を向かえましたが、新しい参加者が加わることは幹事としてうれしいことです。今回は12名の参加者でしたが、今回都合で参加出来なかった人も何人かおられますので、次回はもう1組増さなければならないかと思っています。

優勝したのはコースのメンバーでもあります(株)デグサ・ジャパンの小竹さんでした。

成 績

優勝 小竹 実氏

2位 谷口 昌男氏

3位 津越 宏氏

会 の 動 き

- ◎平成5年2月5日 新春懇親会
神田「鯛屋吉兵衛」において 参加者 会員41名 来賓3名
会報「センサー」26号発行
- ◎ " 3月18日 講演会
「フロン、トリクロロエタンの代用洗浄材及び装置について」
講師 (株)東芝、冠木公明氏、花王(株)、渡辺伸一氏、 参加者21名
- ◎ " 5月25日 定時総会
東海倶楽部において、事業報告、会計報告、平成5年度事業計画を承認、
役員改選を行い新しく、理事、監事が選出された。
石福金属興業(株)、助川計測(株)、相互電機(株)、田中貴金属販売(株)、
(株)徳力本店、二宮電線工業(株)、(株)ニッカトー、林電工(株)、
(株)古河テクノマテリアル、(株)里産業(株)、
ただちに初の理事会を開き、会長に、西村明氏を選出した。
任期は2年間
総会后通産省計量行政室より、計量法改正についてお話をいただき、
懇親会を行った。参加者 21社 33名
- ◎ " 6月10日 第27回「けんたん会」武蔵丘ゴルフコースにおいて 参加者11名
- ◎ " 6月23日 技術懇談会
都立工業技術センターにおいて
尾出 順氏「高温用白金測温抵抗体について」
池上宏一氏「ITS-90に対応する白金系熱電対及測温抵抗体の
基準値について」
竹内章氏、林国洋氏により「サーモビジョンについて」
終了後、懇親会を行った。参加者33名
- ◎ " 10月6日 講演会
「温度標準及び規格の動向」
講師 横河電機(株) 小川実吉氏 参加者30名
- ◎ " 10月19日 工場見学会
関東特殊製鋼(株)

- 横浜みなとみらい、ランドマークタワー他、参加者15名
- ◎平成5年11月9日 第28回「けんたん会」清川カントリークラブにおいて、参加者12名
- ◎ " 11月19日 技術懇談会
- 都立工技センターにおいて「温度実用標準研究会での熱電対、測温抵抗体の持ち回り試験結果について」工技センター 尾出順氏
- 「水の3重点セルと定点の実現について」小里産業㈱ 水真陽一氏
- 「田中貴金属工業㈱の温度校正技術について」
- 田中貴金属工業㈱ 浜田登喜夫氏 参加者33名

理 事 会

平成5年2月5日

- ◎3月18日に、講演会「フロン、トリクロロエチレンの代用洗浄材について行うことを決定。
- ◎定時総会を5月25日に行うことを決定。

平成5年4月8日

- ◎総会に提出する事業報告、会計報告、5年度事業計画を承認。
- ◎6月10日「けんたん会」、6月23日技術懇談会を決定。

平成5年5月25日

- ◎新しく選出された理事による初の理事会を開き、会長に西村明氏を選出し、総会に報告した。

平成5年6月3日

- ◎平成5年度の理事の役割分担を決定。
- ◎創立20周年記念事業は次年度に先送りすることを決定。

平成5年9月14日

- ◎10月6日技術講演会を横河電機㈱の小川実吉氏に依頼すること。
- ◎10月19日工場見学会を、関東特殊製鋼㈱殿にお願いすること。
- ◎11月9日に28回目の「けんたん会」を行うこと。
- ◎11月19日に都立工技センターにおいて技術懇談会を行うことをそれぞれ決定した。

平成5年12月9日

- ◎新春懇親会を、平成6年2月4日、6時より、秋葉原の「万世」で開くことを決定。
会費は1万円とする。
- ◎3月16日講演会を「産業の空洞化と、中小企業の海外進出」をテーマとして、(社)中小企業国際センターの武信隆博氏に依頼することに決定

以 上

工業計器生産額及び対前年比〔通産省生産動態統計〕

生 産		'93/4月	'93/5月	'93/6月	'93/7月	'93/8月	'93/4~8月
工業計器 (合計)	金額(百万円)	32,121	19,287	23,298	24,008	24,055	122,769
	前年比(%)	7.4	-3.6	-1.3	8.9	10.1	4.6
温 度 計	数量(台)	22,887	23,436	24,837	29,726	28,678	129,564
	金額(百万円)	666	659	673	701	761	3,460
	前年比(%)	34.8	44.2	32.7	35.1	42.5	37.8
圧 力 計	数量(台)	8,299	4,592	5,505	7,819	5,616	31,831
	金額(百万円)	1,088	691	782	936	796	4,293
	前年比(%)	-0.9	-13.5	-8.3	-5.1	-5.8	-6.3
液 量 計	数量(台)	8,029	6,655	7,219	7,049	7,804	36,756
	金額(百万円)	1,462	1,131	1,268	1,209	1,311	6,381
	前年比(%)	-24.6	-31.3	-31.6	-36.5	-28.2	-30.4
指示記録計	数量(台)	14,836	14,076	15,406	12,667	13,458	70,443
	金額(百万円)	1,365	1,231	1,380	1,230	1,309	6,515
	前年比(%)	-1.8	-9.4	-14.0	-16.4	-7.9	-10.1
調 節 計	数量(台)	28,500	28,018	32,362	32,754	27,556	149,190
	金額(百万円)	1,278	1,207	1,332	1,295	1,182	6,294
	前年比(%)	10.6	5.4	4.4	7.1	1.3	5.7
プロセス監視 制御システム	数量(台)	—	—	—	—	—	—
	金額(百万円)	15,540	5,611	8,709	10,365	9,613	49,838
	前年比(%)	12.5	-1.8	6.2	46.9	30.1	18.2

※上記の内、温度計の頃は統計に採用する会社数が今年度から増えたのではないかと考えられます。

編集後記

昨年この同じ欄に景気の低迷もそろそろ終わりに近づいており、今が夜明け前のもっとも暗い時間なのではないか、というようなことを書きました。たしかに春から夏にかけて様々な指標が底をうち、経済企画庁でも、景気の底入れ宣言をしたほどでした。しかし、その後の展回はごぞんじの通り、一時は100円を突破するのではないかと思われた円高、冷夏などによりまたまた景気は逆戻りを始めてしまいました。

景気回復の見通しは、調査のたびごとに先送りされ、現在では少なくともあと1年はこんな状態が続くだろうという意見が主流のようです。予測はもともと予測であり、そこに希望的観測も入り込むように思いますから、はずれることはしばしばおきることにように思います。しかし、ここまで景気の低迷が続きますと、やはりただごとではありません。良くいわれますようにこれまでの不況と違い、底をうってもV字型の回復は望めないだろう。

日本の産業は空洞化するだろう、すでに、かなり下がっている土地や株の価格も、さらに下がるかもしれない、など全てのものがいわゆる右肩上がりできたものが壁にぶつかっています。日本経済そのものが、構造的な変質を求められているのは間違いないことのように思います。

これまで我々の業界は比較的順調にきた業界のように思います。この大きな変化のなかで、これまでの手法で乗り切ることが出来るのでしょうか。先日の新聞に、トヨタと日産の運送を担当する系列会社が、互いに協力して、効率をあげる契約を結んだことが報じられていました。従来では全く考えられないことだったのではないのでしょうか。

我々の業界にも生き残りのために大胆な協力関係が必要になるときがせまっているのかもしれない。

平成 6 年 1 月発行 No.27

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込 6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151